

二つの言葉。

塩田中学校 三年 林 音初

学校で人権の勉強をすると毎回思い出す人物が私にはいます。

私の祖母は病気によって、普通の人の足とは少し違う形をしています。違っているといっても、足の指が動かなく、歩く時は、分かりやすいように言うと、ハの字とは逆に足が開いています。祖母の足の事は、小さい頃から理解して、大変さもわかっているつもりでした。

ある日、私はひさしぶりに祖母の家に行き祖母と会うことができ、手伝いをするためにスーパーへ買い物に行くことになったので、祖母の手を引き、お店に入りました。スーパーの中は、大変混んでいて、私と祖母の後ろからお店に入ってきた男性が、いそいでいたのか、足が痛いため歩くのが、ゆっくりな祖母に舌打ちをしてきました。私には、ハッキリと、その音が聞こえたので、祖母にも聞こえたはずでした……。私は、自分のことのように、苦しくて、悲しいと激しく思いました。

そんな私の、気持ちを察したのか、祖母は私に、「大丈夫だよ。」と一言だけ、ニコニコしながら声をかけてくれました。私は、その言葉をニコニコしながら掛けてくれた祖母の優しさと、その中にある悲しみを感じて、とても苦しかったです。

別の日、この日は、祖母と母と一緒にお花見へ行きました。やはり道は混雑
していて、この前のスーパーでの事を思い出して、とても、こわかったです。祖母
を見ると、スーパーの時よりも歩きが速く、やっぱり気にしているのだと思っ
たら、祖母が言いました。「私のために、道を少し開けてくれているのだから、
頑張らなくちゃね。」この言葉を聞いたとき幸せな気持ちでいっぱいになった
ことを、今でもよく覚えています。スーパーの時のような不親切な人もいるけ
れど、それよりも多くの人が気を使って、祖母が歩きやすいようにしてくれる
親切な人がいるということがとても嬉しかったです。

祖母が残した二つの言葉、どちらも笑顔だったけど、全然違って、もっともっ
と私達の生活では、周りの人も「幸せ」だという言葉が増えるように、障がい
者への差別も別の差別もなくなってほしい。消えて欲しい。

私が大好きな、優しく、私の気持ちを大切にしてくれた祖母は、もう亡
くなってしまうけれど、祖母が残してくれた二つの言葉を大切に、誰もが平
等で不自由無い未来のために、自分に祖母がしてくれたことを、誰かに、届け
ていくことが、今の私の夢です。